

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

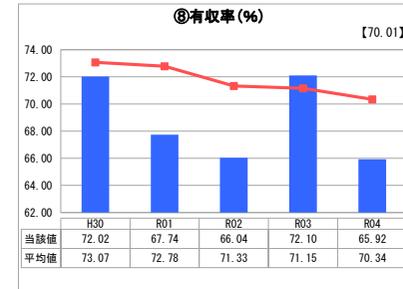
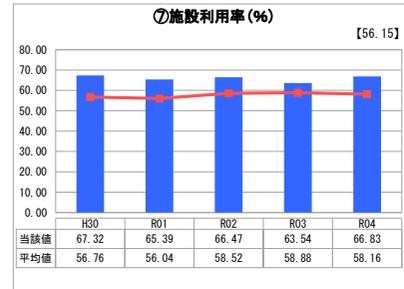
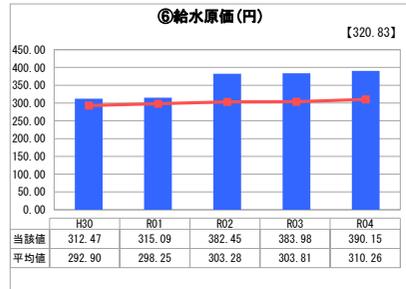
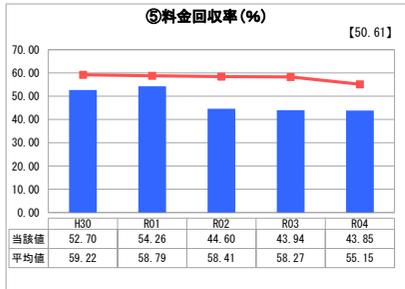
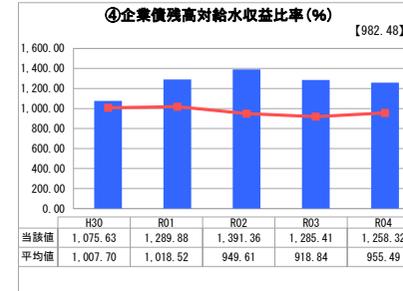
山形県 大蔵村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)	
-	該当数値なし	97.70	3,190	

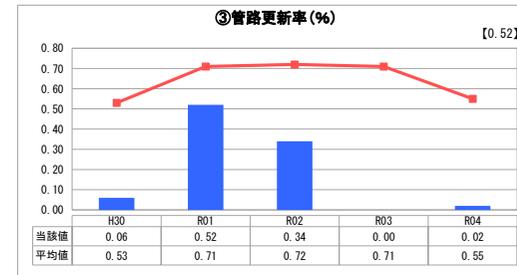
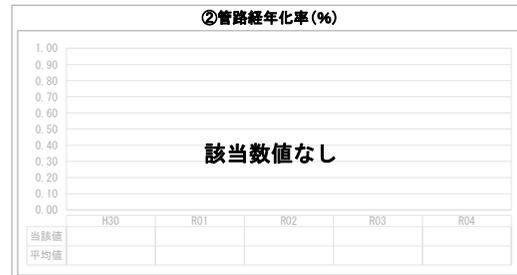
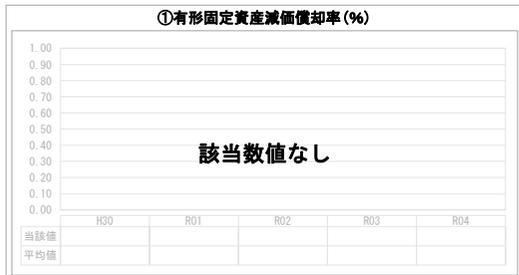
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,939	211.64	13.89
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,841	6.83	415.96

分析標
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析標

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率  
令和4年度において、有収水量が減少に転じ水道料金収入が減少となったため収益的収支比率が減少している。近年は類似団体平均値を下回っている状況が続いている点を受け止め、今後も維持管理費用の削減努力と併せ、漏水対策を行い、住民の理解を得ながらの経営戦略見直しによる収益確保を図っていききたい。

②累積欠損金比率  
該当数値なし

③流動比率  
該当数値なし

④企業債務高対給水収益比率  
令和4年度については、地方債償還金の増や有収水量の減により、給水原価増となり料金回収率が減少した。近年は類似団体平均値を下回っている状況が続いている点を受け止め、給水原価の圧縮や料金徴収の徹底を推進していく。

⑤料金回収率  
令和4年度については、地方債償還金の増や有収水量の減により給水原価が増えている。近年は類似団体平均値を上回っており、効率的な水供給の余地があると考えられる。経費削減や有収水量確保等の改善策をいま一度推進する必要があると考えられる。

⑥給水原価  
施設利用率は65%前後であり、類似団体に比べ施設能力の余剰は少なく済んでいる状況である。各施設の稼働記録の精査や近隣事業者との広域連携検討を通じ、現有の施設能力の十分な発揮、あるいは適切な設備投資について検討していききたい。

⑦施設利用率  
令和4年度については、長期間の漏水により有収率減となっている。引き続き漏水防止の周知や無収水量の原因特定など、有収率改善の方策を検討していききたい。

### 2. 老朽化の状況について

近年は道路改良に伴う水道管移設が断続的に実施されていることもあり、数値の推移にはばらつきがあった。このような傾向は今後も続くと思込されるが、いづれにおいても効果的な更新となるよう注意したい。

計画的な管路の更新予定はないものの、施設については各種数値の分析を行い、適正な規模・能力の配備を行っていききたい。

また、水道施設台帳及び固定資産台帳の活用によって計画的な施設及び管路の更新を図りたい。

## 全体総括

大蔵村の水道は地理・地形的な要件により、施設の集約や管路の効率化が困難であることから、ハード面での大幅な経営改善は見込みづらい。各種指標の分析と、水道施設台帳等により、現有の施設や設備、管路の効果的な更新およびダウンコストの検討を実施しコスト削減に努める。

また、一般会計繰入金への依存が常態化している現状を受け止め、維持管理費用の削減とともに財源確保に努めていく必要がある。今後は料金体系の改定についても住民の理解を得ながら検討していききたい。